

令和元年度の堅果類の豊凶状況と出沒予測について

1 堅果類の豊凶状況

(1) 樹種ごとの作柄の年次比較

樹種_年	R01	H30	H29	H28	H27	H26**	H25	H24	H23	H22**	H18**	年次比較
ブナ (高標高地)	凶	不	不	凶	不	凶	並	凶	豊	凶	凶	$H23 > H25 \geq H29=H27 \geq H30 > \boxed{R01}$ $\geq H22 \geq H18 = H24 = H26 = H28$
ミズナラ (高標高地)	凶	並	不	並	不	不	不	並	並	不	不	$H30 > H28=H24 \geq H23 \geq H29 > H25 \geq$ $H27 \geq H26 \geq H22 \geq H18 \geq \boxed{R01}$
コナラ (低標高地)	不	並	並	不	不	不	不	並	並	不	不	$H30=H29=H24 \geq H23 > H25=H28 \geq$ $H18 \geq H26 \geq H27 \geq H22 \geq \boxed{R01}$

豊：豊作、並：並作、不：不作、凶：凶作。* H18、H22、H26は、秋にクマが大量出沒した年。

(2) 標高域ごとの作柄の概況

○高標高域（奥山）

- ・ブナ：県全体の作柄は凶作。奥越の数地点での不作をのぞき、すべて凶作。
- ・ミズナラ：県全体の作柄は凶作。各地点で、凶作から不作。

○低標高域（里山）

- ・コナラ：県全体の作柄は不作であった。嶺北の1地点での並作をのぞき、すべて不作。

2 秋以降の出沒予測と対策

(1) 過去の出沒状況との比較結果

- ・秋の大量出沒年だった平成18年、22年、26年は8月中旬以降にクマの出沒数が増える傾向にあったが、今年はその傾向にない。

(2) 堅果類豊凶調査の結果

- ・ブナおよびミズナラともに県全体の作柄は凶作で、過去に大量出沒が発生した凶作年と同様に作柄は不良。

現時点での総合的判断



令和元年の秋は、県全域でクマ大量出沒の可能性はある。高標高地域での食物が乏しい状況であり、過去の大量出沒年と同様であることから、出沒件数が増える危険性がある。秋の作柄が不良の年は、8月下旬以降に食物を求めて集落などへの出沒が増加する傾向にある。現時点ではその傾向は見られていないが、低標高域においても不作であり、平年以上に集落内へ餌を求めて出沒する恐れがある。クマの活動が活発化する9～11月にかけて、出沒情報に注意を払うとともに、集落へクマを引き寄せないよう集落内の栗や柿の管理、生ゴミや農作物残渣の撤去などの対策が必要である。